

平成25年度「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的 研究」（共同利用型）成果報告書

「ブルガリア語の冠詞の意味と機能について」

ヨフコバ四位 エレオノラ

一般的によく知られているように、スラヴ語で冠詞を有するのはブルガリア語とマケドニア語だけである。これらの言語で発達した冠詞はバルカン言語連合の共通特徴の一つとして指摘されている。

「冠詞」の問題に着目する研究は多数あるが、冠詞の意味・機能の記述をめぐる一貫した見解は存在しない。さらに、ブルガリア語の冠詞と、他言語においてそれに相応する文法的または意味的・語用論的なカテゴリーの比較・対照をめぐる研究は未だに少ないと言える。

報告者は、今まで日本語の「は」と「が」の研究も行ってきたため、ブルガリア語の冠詞を日本語の「は・が」と比較し、比較を通して見えてきた結果をもとに、「定性／不定性」というカテゴリーについて再考察を行いたいと考えた。

本研究の対象であるブルガリア語に関する資料収集のため、2013年9月と2014年2月の2回に亘りスラブ研究センターを訪れ、計5日間滞在させていただいた。資料収集のため訪れた施設は、スラブ研究センター図書室、北大附属図書館および北図書館の三館である。北大の図書館はいずれも非常に便利で、閲覧・複写という作業をスムーズに行うことができた。国内の大学では北大しか所蔵していない資料を複数収集することができたのは申請者にとって大きな成果であった。滞在期間中に集中的に目を通したのは、*Български език*、*Славянска филология*、*Съпоставително езикознание* という雑誌であった。気になる資料はコピーして持ち帰り、今現在はそれらを丁寧に読み込む作業に従事している。その成果を今後積極的に発表していきたいと考えている。

滞在中にはセンター所属の先生方、スタッフの皆様、並びに図書室のスタッフの方々などから数々の恩恵を被った。

末筆ながら、このような貴重な機会を下さったスラブ研究センターの皆様にご心よりお礼を申し上げたい。